

# トラブル対処法

**症状：**晩霜回避のための入水により苗立率が低下(2008.5.10)  
**原因：**霜注意報の発令により夕方から夜にかけての入水。  
**対策：**2008年の苗立調査会の結果では、霜による生育障害をおそれて入水した人のほ場で苗立率の低下が顕著であった。このため、気温の下降に留意する必要があるが、原則、霜注意報が発令されても入水しないこととする。  
 なお、当年の移植育苗ハウスや一部の施設園芸では、降霜による生育障害が見られたため、一般の作物管理においては、被覆などの対策を講じる必要がある。



フザリウムによる種子の腐敗。  
低温時入水でも同様な症状が見られる。



7:00頃でも代播き水田では5mm程度の水が張っていた。

**症状：**苗立率の著しい不良  
**原因：**深播きや、出芽～2.0葉までの入水過剰・水の停滞で芽が死滅。  
**対策：**湛水では代播き後は3～5日程度水を張ったまま放置し、濁り水の沈降と代が硬くなるのを待って播種する。播種時には低い所に水が貯まっている程度の落水状態で行う。若い代は深播きの要因である。乾田では麦のドリルによる播種や、播種前の碎土が良すぎると深播きとなる。2.0葉期までは、「苗に水を与えている気持ちをお忘れなさい」ことが大切です。  
 なお、入水は暖かい日が予想される前日の夕方から夜間にかけて行う。



土をめくると芽の生死が確認できる

3cm

芽と根の伸長の観察を怠らないことが重要!



全体を定期的に見回る

ほ場全体に目を配る。  
日中入水は生育期間を通じて禁止!!

**症状：**畑作雑草による減収(10～20%減収)  
**原因：**湛水では落水状態が長期にわたる場合。乾田では前作の畑作物時に雑草が多い場合。  
**対策：**直播予定地の水田では前作物終了後や栽培期間において雑草対策を怠らない。  
 なお、乾田(乾籾播種限定)の場合は、安全性がすべて解明されていないが、ラウンドアップマックスロードの出芽前処理は有効である。  
 また、深水入水も有効であるが、生育が著しく遅れる。生育量も劣り、追肥も多く必要となった。



草に負けない  
↓  
追肥増!?

**症状：**枕地の苗立ちが悪い、ほ場のムラが多い。  
**原因：**均平作業や耕起作業時にトラクタの旋回が多い。水田が湿った状態で作業を行った。  
**対策：**水田を良く乾燥させてから、各作業を行うことを徹底する。春に水田の点検を確実にを行う。



全体もムラになっている

均平時にほ場の乾きが不十分で、トラクタのタイヤ跡ができてしまった。



ほ場の隅が苗立皆無。雑草も多発

均平時に作物の残渣物が隅に集まった。入水後はゴミも風で寄って生育が抑制。



隣接する移植水田から浸水

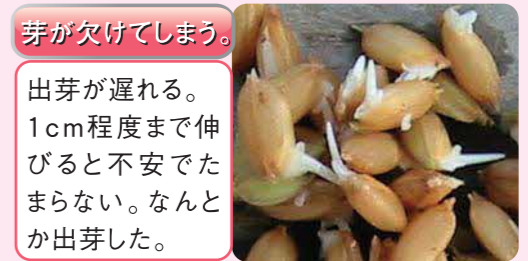
隣接が畑ばかりだと、逆に漏水が激しい。水田基盤の見直しが重要。



10%以上減収した。

鎮圧が不十分で、トラクタのタイヤ跡の生育が旺盛。出穂のムラがひどい状態。

**症状：**芽が伸びすぎてしまい、播種ホッパーで芽が欠ける。  
**原因：**4月下旬～5月上旬は浸漬水温が高くなりやすい。このため油断すると出芽してしまう。  
**対策：**浸漬時に毎日観察する。伸びた芽が5mm程度であれば、なんとか出芽してくる。播種時には種子量の減り方がかわるので、播種量の調整を行う。種子ホッパーから落下しづらいので注意する。



芽が欠けてしまう。

出芽が遅れる。1cm程度まで伸びると不安でたまらない。なんとか出芽した。

**症状：**鳥類による捕食(鳥害)  
**原因：**①スズメ・カラスは出芽不良により落水期間が長引くと、種子を捕食したり幼芽をついばむ。(陸型の鳥害)  
 ②カモは入水開始により水面を泳ぎ、幼芽をついばむ。(5葉頃まで)(水型の鳥害)  
 ③マガンは集団で飛来し、水田内を足跡で荒らし、種子を捕食したり幼芽をついばむ。(水陸両用)  
**対策：**音・光などは一時的に効果があるが、慣れてしまう。テグスが最も効果的。(1～2m程度の間隔で、播種後～5葉期まで設置)。出芽を順調にすることで被害は軽減している。浅播きを守り、メリハリの効いた水管理を行なって出芽を促進させることが一番の対策である。  
 なお、餌付けはあまり効果的ではない。



スズメ



カラス

表面が乾くと飛来



カモ



マガシ

3cm以上水を張ると飛来

突然、群衆で飛来、水陸両用